



東京本郷ロータリークラブ週報



2014-2015 年度 国際ロータリーテーマ 「ロータリーに輝きを」
東京本郷ロータリークラブテーマ 「地域社会に密着した奉仕活動を推進しよう。」

創立／平成3年3月13日（1991年）

事務局／〒102-0072 東京都千代田区飯田橋1-9-6-905 電話：03-3238-5350 FAX：03-3238-5352

インターネットホームページ：<http://www.t-hongo-rc.gr.jp> E-mail：office@t-hongo-rc.gr.jp

例会：毎週水曜日12時30分 例会場：ホテルメトロポリタンエドモント 電話：03-3237-1111

〒102-8130 東京都千代田区飯田橋3-10-8

会長：柴山修一 副会長：大住省一 会長エレクト：河合 洋 幹事：松岡 浩 会報委員長：飯田美里

10月8日 第1109回例会

2014年10月8日発行（No. 1065）

本日の卓話

「米山奨学生（米山友の会）」

担当理事 松下 和正会員
米山奨学委員長 古関 伸一会員

次回の卓話（10月15日）

ガバナー公式訪問

第2580地区ガバナー

鈴木 孝雄 様（東京池袋RC）

10月1日 第1108回例会報告

卓話

「ゴルフから見る日本」

ジャーナリスト 大宅 映子 様

紹介者 伊藤 守会員

「内容を録音したデータが事務局にあります」



卓話をされる大宅映子様

理事会報告

1. 忘年家族会について

小林担当理事、棟田親睦活動委員長が会長、幹事とも相談しながら、どのような会にしていこうか決めていくという事を確認した。

2. 米山梅吉記念館への寄付について

当クラブから出した質問状に対して得られた第2620地区からの回答書の内容を吟味した結果、500円×会員数を寄付するという事で承認された。

3. ガバナー公式訪問について

野球大会をはじめとした青少年奉仕への取り組み、新世代奉仕、職場体験、留学生のお世話など当クラブの奉仕活動を幅広く議論する場とする事、また、事前に関連する委員会の委員長と打ち合わせをする事を確認した。

4. 東京RCプロジェクト「東北すくすくプロジェクト」への支援依頼について見送ることで決定した。

5. 「文京社会験学コンテスト」協賛依頼について 青少年奉仕委員会にて検討することに決定。

6. 親睦旅行収支報告

幹事が、親睦旅行収支計算書について説明。親睦活動委員会は、残余金（3,672円）を忘年家族会の会計に繰り入れる事を希望。繰り入れる事で承認された。

7. 上申書について

須山担当理事が、「重版Ⅱ版 ロータリー・クラブ—その理論と実態と批判—」（小堀憲介氏著）の中の「会員資格としての職業について説明」の部分の参考資料として適用しながら、「会員資格には、職業自体による制限はない」「地域社会の職業分布を考慮して確定された職業分類を会員選考の基準とする考え方を国際RCは確認した」等の小堀氏の考え方を紹介。結論の出せない難しい課題ではあるが、それだからこそ理事会としては、会員選考のプロセスを意識して注意深く見守りながらすすめていこうという事を確認した。

8. 第3回東京ドーム少年野球大会について
地区補助金を申請した事により、11月～12月ごろに地区R財団とのヒヤリングがある。
それに向けて、第3回を行うかどうかの方向性について意見を交わした。
9. a. 10月6日（月）北分区ゴルフ予選会参加者の
メーキャップ扱いの件について
メーキャップ扱いにすることが承認された。
- b. 2015－2016年度 地区青少年奉仕委員長
松下和正会員の件
上記委員長に松下会員が就任する事が地区委員会ですでに決定している。松下会員本人も了承済み。それに関する集まりがあり、地区出向費としてクラブより支出する事を報告。
- c. 愛育養護学校からの支援依頼
クラブとしてではなく、個人として支援を希望する会員が支援するというようにすすめる事に決定。

会長報告

1. 過日お知らせいたしました「薬物乱用防止ポスター・標語」の選考結果が行われ、選ばれた応募作品が本日10月1日の16:00まで文京シビックセンターにて展示されているそうです。お時間のある方は、足をお運び下さい。
2. 先月の例会でボックスを回し、会員の皆様からいただいた広島豪雨災害義援金とクラブ負担分をあわせ6万円を地区へ送金いたしました。
地区より全体で約350万円ほど集まり、広島の被災地区へ送金しましたと、報告を受けましたので、お知らせいたします。
3. ご紹介いたしました、2015年2月に開催される地区大会ホストクラブ 東京セントラルパークロータリークラブより、谷津会長、松林幹事がこられておりますので、ご挨拶をお願いしたいと思います。

幹事報告

1. 10月のロータリーレートは、1ドル＝106円となります。
2. ローターアクトクラブ例会参加のお知らせがありました。
現在東京8クラブ、沖縄3クラブが活動しており、例会の開催や地域に根ざした奉仕活動を行っています。ローターアクトの例会もメイクアップになりますので、参加をご検討下さい。
例会開催日程については、クラブ事務局までお問い合わせ下さい。

出席

会員数：52名 欠席出席免除者：4名 出席数：39名
欠席数：9名 出席率：81.25%
9月17日修正後出席率：87.23%
ヴィジター：1名

クラブゲスト：大宅映子様（卓話講師）
谷津和広様（東京セントラルパークRC会長）
松林 茂様（東京セントラルパークRC幹事）
茂呂順一様（渡辺会員ゲスト）



＜地区大会に関するご挨拶＞
東京セントラルパークRC 会長 谷津様・幹事 松林様

ROTARY ROTARY ROTARY ROTARY ROTARY ROTARY ROTARY

ニコニコBOX

* 松下和正会員

内定式なので超早引きさせていただきます。すみません。今晚、廣瀬さんのイタリアンで内定学生と食事会です。ありがとうございます。

* 辻野泰介会員

結婚祝い有難うございます。とにもかくにも、楽しい夫婦であるよう心がけてまいります。

* 川口勝彦会員

結婚祝いありがとうございます。

* 棟田和博会員

親睦旅行に沢山の皆様にご参加いただきありがとうございます。12月の忘年家族会もよろしくお願い致します。

* 伊藤 守会員

私の人生とゴルフの先生の大宅映子先生がお忙しい中、卓話をいただくことに感謝いたします。

ニコニコBOX	24,000円
累計	380,000円

ROTARY ROTARY ROTARY ROTARY ROTARY ROTARY ROTARY

2014－2015 親睦旅行

親睦活動委員会委員長 棟田 和博

：日程 平成26年9月26日（金）～27日（土）
：宿泊 熱海後楽園ホテル
：参加者 20名

旅行前には台風の心配も一時ありましたが、親睦旅行2日間共に絶好の行楽日和で幹事として一番嬉しくホッとしています。今回の親睦旅行のテーマは、「ゴルフ、カラオケ、マージャン、囲碁そして地元

海鮮料理の宴会」と設定して、全てのテーマを実現出来て日帰りも可能な熱海後楽園ホテルを選定しました。

ゴルフは、26日（金）に郷友会コンペを神奈川県大磯町にあるレイクウッドゴルフクラブで開催し、絶好のコンディションの中で木村会員が見事優勝されました。

カラオケは、宴会後ホテル内のクラブ「ウェイブ」で参加者が一人数曲ずつ自慢の喉を披露して楽しいひと時を過ごしました。

マーじゃんは、ホテル内の麻雀ルームで熱戦と舌戦が繰り広げられていました。囲碁は、広い相模湾を眺めながら静かな大人の頭脳戦を楽しんでいただけのことと思っています。午後6時からの宴会は3階の大宴会場を会場として、20名の参加者が揃ったところで柴山会長の乾杯で始まりしました。

その後大広間に熱海美人4名が登場して、お酒を造ったり運んだり話をしたりして、楽しい2時間があっという間に過ぎました。

宴会の途中に、樺本幹事長の司会で郷友会コンペの表彰式があり、ラッキー賞賞品であった越乃寒梅は受賞者から進呈いただき、美味しいお酒なのであっという間に無くなってしまいました。

宴会最後は、参加者代表の近藤会員が一本締めの音頭をとって無事終了しました。

その後、カラオケ、マーじゃん、卓球、露天風呂など、各自熱海の夜を遅くまで楽しんで過ごしました。翌日は、ホテル最上階の朝食バイキング会場で、早朝の海を眺めながら相模湾の鯨やしらす、小田原の蒲鉾、伊豆の山葵漬け等を堪能して、ホテル内で開催されていた朝市でお土産を買って三々五々帰路につきました。

以上



ROTARY ROTARY ROTARY ROTARY ROTARY ROTARY

「心の復興」を 東日本大震災と同時多発テロの被災者が交流

ロータリー・ニュース：2014年10月2日

東日本大震災から3年半。がれきも取り除かれ、外見的には平常を取り戻したかのように見える東北被災地。一方で、災害が人びとの心に残した傷は深く、「メンタルヘルス後進国」と呼ばれる日本では、話を打ち明けることもできずに、悲しみや苦しみを

心の内に抱えこむ人が少なくありません。「被災者がまず、自分たちのことを仲間に話せるようになることが、悲しみを乗り越える第一歩」こう話すのは、ニューヨーク近郊にあるイングルウッド・ロータリークラブの会員、柳澤育代さんです。

ニューヨークの医療機関は、9・11の同時多発テロ以来、長期のPTSD（心的外傷後ストレス障害）への治療に対応した経験とノウハウがあります。この点に注目したイングルウッド・ロータリークラブは、郡山西ロータリークラブと協力して、被災者の心のケアを中心とした支援活動を開始。ロータリー財団補助金を申請して、原発事故の影響を大きく受けた地域のメンタルヘルスケア施設4カ所に、ビデオ会議機器を寄贈しました。これにより、同時多発テロで心の傷を負った人びとへのケアを行っているニューヨークのトラウマ（心的外傷）専門医との連携が可能となりました。

3年前に開始されたこの支援活動には、ビデオ会議機器の寄贈のほかにも、絵本「サダコの折鶴」の日本語と英語による制作と配布、被災地の子どもたちへの「真夏のサンタクロース」事業、郡山市への折鶴モニュメントの寄贈、ニューヨークの「911家族会」と東北被災者との対話集会など、包括的な支援が含まれています。911家族会の訪日にあたっては、米国日本人医師会とアメリカン航空からの協力もありました。

心の痛みをわかちあう

今年7月に被災地を訪れた911家族会団長で、ニューヨーク市元消防副所長であるリチャード・ファーチさんは、ブルックリンの消防署に勤務中、テロに遭いました。消防署員343名が殉職し、ファーチさんも同僚60人を失うことに。事件後、6～7年間は自らの経験を誰にも話せず、精神的に辛い時期を送ったというファーチさんは、自身の経験から、少しでも東北被災者の力になりたいと考えました。彼自身、911家族会の存在を知り、自分のことを語りだしたことで、前向きに生きられるようになったと言います。

交流会の際には必ず、「お互いさま」という日本語で挨拶するファーチさん。東北の被災者も自分と同じだという思いが、この言葉に込められています。この一言で、被災者も心を開き、自分の体験を語るようになります。

それぞれ境遇は異なるものの、同僚や家族を失い、その悲しみを乗り越えるという互いの共通点は、言葉で表せない心の交流をもたらします。同時多発テロから10年以上経った今も、あの日のことを鮮明に思い出すという911家族会メンバーたち。彼らにも、今回の訪問をきっかけに心の変化が起きています。「（東北訪問は）自分自身について考えさせられる体験。人生の転機となった。これからは人助けにもっと時間を捧げていきたい」（訪問したメンバー）

続きは <https://www.rotary.org/> をご覧下さい。